

『極楽寺境内絵図』 極楽寺蔵

中世前期の患者への眼差しと処遇

極楽寺絵図にみる ハンセン病患者



一遍聖絵

国立ハンセン病資料館 春季企画展



会期

2013年

5月11日[土]—8月11日[日]

会場

国立ハンセン病資料館 企画展示室 入館無料

国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

TEL: 042-396-2909

FAX: 042-396-2981

URL: <http://www.hansen-dis.jp>

開館時間

9:30~16:30 (入館は16:00まで)

休館日

月曜日(祝日の場合は次の日)、館内整理日

『一遍上人縁起絵』尾張甚目寺 清浄光寺(遊行寺)蔵



尾張甚目寺



相模極楽寺



極楽寺境内の千服茶臼と製薬鉢



極楽寺中心伽藍跡（江ノ島電鉄車両研施設地区）出土の中世陶磁器・土器



極楽寺中心伽藍跡（旧境内遺跡）出土の中世瓦



極楽寺中心伽藍跡（旧境内遺跡）出土の中世陶磁器・土器

ハンセン病と日本人との関わりは古く、『日本書紀』に「白癩」の記述をみることができます。古代から近世までのハンセン病への認識は、感染する病、仏罰による病、「けがれ」た病、家筋・血筋が原因というように変化しなおかつ重なりあっていました。

そうしたなかで、患者たちは、罪深い者、業を負った者として社会の底辺におかれてきました。なぜこの病気を患った人が、ひどい差別を受けるようになったのか、近代における「癩」対策がなぜ誤ってしまったか、その源を知るためにも、前近代に関する調査・研究も、私たちは継続しなければなりません。

しかしながら、近代日本が国策として「癩」対策事業を始める以前は、ハンセン病およびその患者が歴史の表舞台に現れることは少なく、史資料も断片的で各時代の差別・偏見の実相を窺い知ることはなかなか困難です。

そのような乏しい史資料にあって、中世前期（鎌倉時代）には、ほぼ同時代を生きた一遍・忍性に関連する事跡に、当時「非人」として総称された被差別民に包括された人々（「癩者」）のあり様について垣間見ることができる情報が遺されています。

そこで本展覧会は、日本前近代史におけるハンセン病についてとりあげる端緒として、中世前期の人々のハンセン病患者への眼差し、そして患者の社会のなかでの処遇について、一遍聖絵・極楽寺絵図を観ることによって、差別の実相を窺う手がかりを見いだしたいと考えています。

付帯事業情報

- 会期中に田中密敬氏（真言律宗極楽寺住職）、遠山元浩氏（時宗総本山遊行寺宝物館学芸員）をお招きしての講演会を予定しています。詳細は当館ホームページ等でお知らせします。
- 会期中、毎月第3土曜日（5月18日、6月15日、7月20日）、午後2時より、学芸員による展示解説を行います。

交通案内

- 西武池袋線清瀬駅南口より、「久米川駅北口」行きまたは「所沢駅東口」行きバスで約10分
- 西武新宿線久米川駅北口より、「清瀬駅南口」行きバスで約20分
- いずれもバス停留所「ハンセン病資料館」下車すぐ
- JR新秋津駅・西武池袋線秋津駅より徒歩約20分
- 関越自動車道所沢インターチェンジより約30分（駐車場あり）

